

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

2025 年月 岩田望来

初めての試験に約2週間の休暇、次なるタームのスタートと、10月は忙しくもあっという間に過ぎた1か月でした。今回のレポートでは休暇中に出かけたメキシコシティの観光地を中心に書いていきます。

1.初めての試験……！

CEPE では6週間のタームが終わり、10月上旬から中旬にかけて期末試験が行われました。試験は3日間あり、パソコンで文法・聴解・読解・作文の問題を解く日、クラスメートとペアになって会話の試験を行う日、スペイン語版 TOEIC IP テストのような SIELE を行う日があります。SIELE は任意でしたが、今の実力を知りたいと思い受けることにしました。

初めての試験ということで勝手が分からずどうなることかと思いましたが、意外と何とかなりました。無事次の nivel に進級できました。

2.メキシコシティの歴史を辿る旅

約2週間の休暇を利用し、『地球の歩き方 メキシコ』（学研出版）を片手にメキシコシティの観光地を歩きまわるといふ簡易的な旅をしました。メキシコに来たばかりの頃は「モクテスマの復讐」に苦しめられていたため満足な観光ができなかったのです笑。

行った場所は、チャプルテペックの森、チャプルテペック城、近代美術館、国立人類学博物館、ソカロ広場、テンプロ・マヨール。メキシコの観光地に詳しい方はお分かりかと思いますが、これ、かなり偏っています。本当はもっと色々な場所、とくに壁画の美術館に行きたかったのですが、それぞれの観光地で見られる独立までの足跡やメソアメリカの神話的世界観に完全に魅せられてしまい、同じ場所に何度も何度も足を運んでいたためです。そのため「メキシコシティの歴史を辿る旅」といいつつも辿れたのは独立前まで。全く辿りきれいていません。

この中でも個人的に好みだったのはテンプロ・マヨールです。テンプロ・マヨールは、スペインによる征服・植民地化の前にメキシコ中部で栄えていたアステカ帝国の中心にあった最も主要な神殿です。軍神と、雨と豊穡の神を祀っていたそうです。征服者によって破壊され、その上に建物を建てられていました。1978年に巨大な円盤状の遺物が発見されたことから、政府主導の発掘プロジェクトにより神殿の一部が発掘され、今の姿になっています。

本来の姿の下部分しか遺っていませんが、アステカ帝国の神話を強く感じられるととてもいい場所でした。神道と同様多神教でありながらも、「死」がより身近であったり、人間と動物が混ざったような姿をした神々が多かったりと、違いを感じられて非常に興味深いです。

メソアメリカの神々特有の不思議な顔つきもちょうと好き。



国立人類学博物館で撮影。

右：テオティワカン遺跡のレプリカ。農耕の神ケツァコアトルと雨の神トラロックの顔が交互にはめ込まれている。

左：アステカカレンダー。メヒコ人が時の概念を持っていたことを証明する。



テンプロ・マヨール。

スペイン征服時代の名残が残るメキシコシティの中心部にどーン！と位置する。

このように今では土台部分しか遺っていないが、その土台の広さ・大きさから、どれほどの規模感だったのかが分かる。



右：かえる。

左：チャクモール像。チェチェン=イツツアの像が有名だが色々なところで見かける。「死んだ戦士」を象徴するらしい。

3,Otoño 2 開始

次のタームが始まりました。先生もクラスメートも変わり、授業の雰囲気もがらりと変化しました。

今回のクラスメートは、日本人×3、韓国人、ロシア系ウクライナ人、イギリス人、ハイチ人、コートジボワール人の8人。全員が授業中に積極的に先生に質問をしに行くような、とても真面目なクラスという印象。特に聞く力と話す力が爆発的に伸びそうなクラスです。このクラスで頑張っていきます。

また今回の文化の授業は「Historia de México para Extranjeros 3（外国人3（=nivel 3の学生）のためのメキシコ史入門）」を履修しました。理由はいわずもがな、休暇中の観光で味わった歴史に興味を抱いたからです。ひたすら聞く授業なので終わった頃には脳が疲弊していますが、興味がある分非常に面白い。もっと歴史にのめり込みたいと思います。

4. ～岩田の推しスポットはテンプロ・マヨールなので今月は省略します～